

ラット・マウスの感染症病原体 CAR(カー)バチルスに学名が付きまして

池 郁生

国立研究開発法人理化学研究所バイオリソースセンター実験動物開発室

CAR(カー)バチルスは 1980 年に Van Zwieten らによって初めて報告された¹、ラットやマウスに慢性呼吸器疾患を起こすグラム陰性フィラメント状桿菌で、感染部位と形状の特徴から Ganaway らにより 1985 年、呼吸器線毛付着桿菌 (*Cilia-associated respiratory bacillus*) と通称が付けられました²。それ以後マウスやラットから多くの株が分離されましたが、本菌は通常の寒天培地で増殖せず、学名提案に必要な基本性状を調べるのが困難だったため、学名は付けられないままでした。理化学研究所(理研)の池と放射線医学総合研究所(放医研)の小久保らのグループは、1986 年に放医研の松下らが肺炎を起こしたラットから分離した SMR 株を効率よく単独培養する方法を見だし、その方法で増殖する株を「SMR-C 株」と名付けました。そして SMR-C 株の基本性状を調べた上で本菌を *Bacteroidetes* 門 *Sphingobacterium* 目の新科 *Filobacteriaceae*、その中の新属ならびに新種として *Filobacterium rodentium* と命名しました。*Filobacterium* は新ラテン語でフィラメント状細菌の意味、*rodentium* には菌が齧歯類由来かつ齧歯類に感染するという意味を込めました。基準株は SMR-C 株で、理研バイオリソースセンターの微生物材料開発室に寄託されています(JCM 19453)。

< 発表論文 >

Ike F, Sakamoto M, Ohkuma M, Kajita A, Matsushita S and Kokubo T

"*Filobacterium rodentium* gen. nov., sp. nov., a member of *Filobacteriaceae* fam. nov. within the phylum *Bacteroidetes*, and includes microaerobic filamentous bacterium isolated from rodent respiratory disease specimens".

Int J Syst Evol Microbiol 2016, **66**:150-157. Doi: 10.1099/ijsem.0.000685

参考文献

1. Van Zwieten, M. J., Solleveld, H. A., Lindsey, J. R., de Groot, F. G., Zurcher, C. & Hollander, C. F. "Respiratory disease in rats associated with a filamentous bacterium: a preliminary report". *Lab Anim Sci* 1980, **30**: 215-221.
2. Ganaway, J. R., Spencer, T. H., Moore, T. D. & Allen, A. M. "Isolation, propagation, and characterization of a newly recognized pathogen, cilia-associated respiratory bacillus of rats, an etiological agent of chronic respiratory disease". *Infect Immun* 1985, **47**: 472-479.